

ネイブリッジセキュリティ資料

1. なぜセキュリティが大事か

- 管理組合ポータルは **住民の個人情報・会計情報・議案書** を扱うため、漏洩すると大きな問題になる。
- そのため「安全に保管・閲覧・共有」できる仕組みが必須。
- ネイブリッジは **銀行レベルの暗号化**と**権限管理**で守っている。

SSLまとめ

- SSLは**通信の暗号化 + サイトの信頼性保証**の仕組み
- ネイブリッジは**JPRSの有料SSL証明書（ドメイン認証型）**を導入
- 国内認証局による信頼を確保し、住民や理事が安心して利用できる環境を保証

reCAPTCHAまとめ

- reCAPTCHAは「ロボットの攻撃をブロックする番人」
- 不正アクセスやスパム投稿を防ぎ、**人間だけが正しくフォームを使える**仕組み
- ネイブリッジでは導入済みで、利用者が安心して操作できるフォーム環境を提供

サーバー環境まとめ

- ネイブリッジは**国内大手「さくらインターネット」の業務用サーバー**を利用
- 安全性・安定性・法的信頼性**の3つを備え、長期的に安心して利用できる
- 「止まらない・消えない・漏れない」サーバー基盤で運用

2. アクセス制御の仕組み

・鍵付きページ（WordPress標準機能）

→ 資料アップロード・閲覧ページは「パスワード」を知っている理事や担当者のみ入室可能。

・ベーシック認証（Basic Auth）

→ IDとパスワードを入力しないとページにアクセスできない仕組み。

→ WordPressのアカウントを発行せず、シンプルかつ安全に管理可能。

3. 通信の安全性

SSLとは？

SSL (Secure Sockets Layer) は、インターネットでやりとりする情報を暗号化する仕組み。URLが **https://** で始まるサイトはSSLが導入されている証拠。

通信が暗号化されているため、第三者が盗み見ても内容を解読できない。

ネイブリッジで導入しているSSL

JPRSのドメイン認証型SSL（DV証明書・1年更新・年間約1,000円）を利用。

ドメイン（neighbridge.jpなど）の所有者であることを証明し、通信を暗号化。

「有料のSSL」を導入しているため、証明書が公式に発行され、ブラウザでも信頼された接続として表示される。

無料のSSL（Let's Encryptなど）もあるが、以下の違いがある：

- 有料SSLは国内の認証局（JPRS）が発行→信頼性が高い
- 有料SSLはサポート体制や更新管理がしっかりしている
- 証明書の有効期限や管理が安定している

SSL証明書とは？

- 「このサイトは確かにこのドメインの持ち主が運営している」と証明する電子的な身分証明書。
- ブラウザは証明書を確認し、問題なければ「 鍵マーク」を表示して安全な接続と認識。
- ネイブリッジは JPRSの正式な証明書を取得済み。
- これにより、利用者（住民・理事）が「安心してログイン・利用できる」状態を保証している。

4. 不正アクセス防止

🤖 reCAPTCHAとは？

Googleが提供しているセキュリティ機能。

「このアクセスは人間なのか、ロボット（自動プログラム）なのか」を判定する仕組み。

💡 何のためにあるのか

インターネットには「ボット」と呼ばれる自動プログラムが存在する。

例：

- ・フォームに大量のスパムを送信する
- ・不正にログインを試みる
- ・掲示板に迷惑広告を投稿する

reCAPTCHAは、このような自動攻撃を防ぎ、人間だけが正しくフォームやページを利用できるようにする役割を持つ。

✓ ネイブリッジでの利用場面

資料アップロードフォームやお問い合わせフォームなどに導入。

「私はロボットではありません」とチェックを入れるあの仕組み。

最近のバージョン（v3など）は、利用者がチェックを入れなくても裏で判定してくれる。

まとめ

reCAPTCHAは「ロボットの攻撃をブロックする番人」。

ネイブリッジではこれを導入することで、

- 👉 フォームの安全性を高め、
- 👉 不正アクセスやスパム投稿を防ぎ、
- 👉 利用者が安心して操作できる仕組みを整えている。

サーバー環境について

1. サーバーとは？

サーバーは「ポータルサイトのデータを保管し、利用者に提供するコンピュータ」。

マンションでいうと「住民が書類を取りに行く倉庫」のような役割。

安全で安定したサーバーを使うことで、

- 👉 サイトが止まらない
- 👉 データが消えない
- 👉 情報が外部に漏れない

という安心感が得られる。

2. ネイブリッジのサーバー環境

業務用サーバーを利用

→個人向けの安価なレンタルサーバーではなく、法人・ビジネス利用を前提にした安定した環境。

→大量アクセスや長期運用に耐えられる設計。

国内の大手企業「さくらインターネット株式会社」が提供

→大阪・東京など国内データセンターで運用。

→日本の個人情報保護法に準拠。海外の不明なサーバーにデータが保管される心配がない。

→創業以来20年以上の実績があり、大学・研究機関・企業でも多数採用。

3. 安全性のポイント

物理的に守られた環境

→データセンターは24時間365日監視・入退室制限あり。

冗長化（バックアップ体制）

→サーバーや電源にトラブルがあっても、別の設備で稼働を継続できる仕組み。

国内サポート

→トラブル時も日本語で迅速に対応可能。

4. 利用者にとっての安心

「業務用」なので止まりにくい

→理事会資料や会計データが必要なときに「見られない」というトラブルを防ぐ。

「国内」なので法的にも安心

→日本の法律に基づいて運用されているため、海外サーバーのような規制リスクがない。

「大手・実績あり」なので信頼できる

→公共性の高い大学や団体も使っているため、安心して利用できる。